

城島天満神社 獅子舞【じょうじまつてんじんじゃししまい】

開催場所	久留米市城島町城島字本丸 城島天満神社
開催日	7月13日

【芸能の概要】

城島天満神社獅子舞は、城島天満神社の末社「祇園神社」の祭典で舞われる。昭和初期に始まったといわれるが、起源は定かではない。保存会による大人獅子と、子供会による子供獅子各1対の獅子を総勢60名程が、二手に分かれて氏子たちの無病息災を祈願して町内を回る。獅子頭を先頭に、リヤカーに積んだ鐘・太鼓を打ち鳴らして勇壮に巡行する。

【芸能の特徴】

城島天満神社は1583(天正11)年築城された城島城の本丸跡にあり、寛文社方開基によれば「大明神社に神体木像壹体御座候」と記されており、1670(寛文10)年にはすでに祭祀されていたと思われる。その境内に祀られた祇園社は、戦国時代以前から、城島の中心地に産土神として祀られてきていたものが、1926(大正15)年に神社に併祀し現在に至っている。獅子舞は、昭和初期に始まったといわれているが、詳しいことは定かではない。古老の話では、数十年前は青年主体で行っていたが、昭和35年頃に、子供育成のために子供用の獅子を用意し、子供が主体となった。大人獅子と子供獅子は一緒に町内を回っていたが、時間がかかりすぎて夜に及ぶため、今は大人獅子と子供獅子は途中から別々に町内を回っている。

【使用する祭具・道具など】

古い獅子頭は大人用で神社に保管(修理、塗り直しをして使っており重い)。子供用の獅子頭は大人用よりやや小さく軽い作りである。

・近くの特産品

瓦、青ネギ、米、酒